編集/発行
Insect Resources Technology, Inc.

UAE友好シルク NEWS (2019.10.17)

待ちに待った、五年生を中心にドバイの魅力を発信

「ありがとう」の感謝を込め、日本との親善大使として期待

東京の小学校から届いた小石丸に喜ぶドバイ校の児童

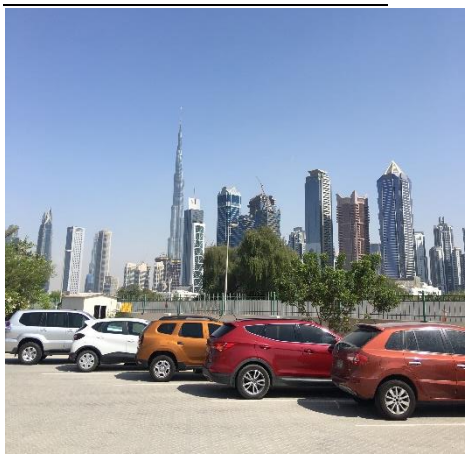
東京から届いた小石丸を手にした五年生たちは、「ありがとう。とても素晴らしい機会」と、早速、日本に向けたメッセージの作成に取りかかりました。

五年生の担任の向山良祐先生と松崎裕介先生が小石丸プロジェクトの説明すると、子供たちは「一学期の分も頑張ろう」「東京の仲間たちに、ドバイの良さをどんどん伝えていこう」と大盛り上がり。早速、ビデオレターの準備に取りかかっていました。

また、一学期は五年生だけで取り組んだ小石丸の飼育も、今回からは三、四年生も加わり、東京の小学校の学年に合わせた交流が可能に。五年生は全体をフォローしながら、ドバイの様子や魅力を東京の仲間たちに伝える「親善大使」の役割を担っていきます。

そして、ドバイ校の子供たちは、中東で初めて日本の蚕が卵を産むという快挙を目指し、来春には日本の小学校にUAE産の小石丸をプレゼントしたいと意欲を見せています。

松崎先生は「このまま順調に育てながら、小石丸が国と国を結ぶという壮大なロマンを子どもたちと楽しみたい」と話しています。



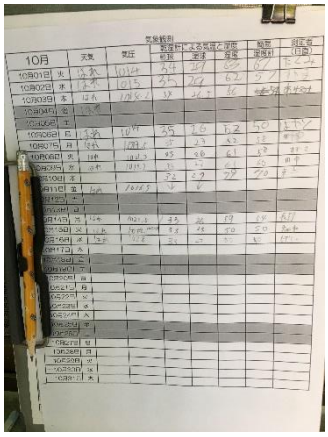
世界一のっぽのバージカリファ(827m)

ドバイはまだまだ暑く、連日 33 度以上の猛暑日

連日三十三度を超す猛暑にも関わらず、子供たちは気温と湿度を入念にチェック。相変わらず湿度が低い中、小石丸が育ちやすい環境づくりに余念がありません。

また交流コーナーの充実を図るなど、全校児童と父母が常に東京の仲間たちとの交流を楽しめるようにしています。

同校の職員たちも、一日も早い東京の仲間たちとの交流を待ち望んでいます。



東京との交流の様子は交流コーナーで父母にも紹介